昭和 20 年 2 月下旬の有珠火山調査報告**

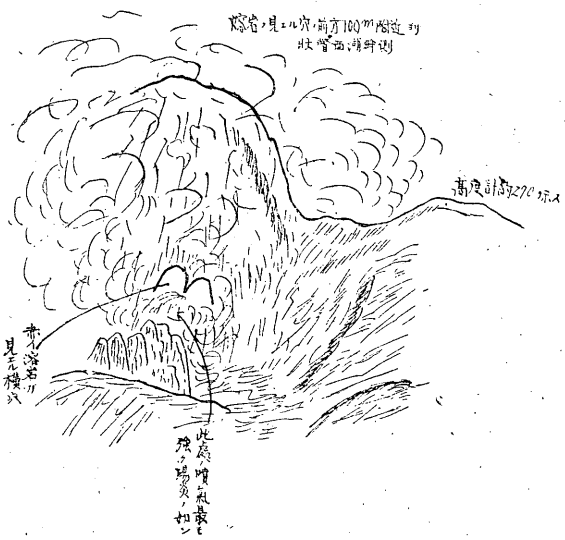
斎藤義文*・工藤照雄*

今度の調査に当つては前月下旬の当時に比較して山頂附近及孵化場部落附近を除いては殆ど変化を認められなかつた。登山コースは前回と略同一コースを取つたが天気良く且つ暖かゝつた爲，山頂附近に於ても水蒸気にさまたげられる事なく充分に調べる事が出来た。

壯瞥市街及西湖畔方面より見える火に附いて。

壯瞥駅にて下車した時に附近の人より此頃火口附近に毎夜の如く火が見えると言ふ噂さを聞いた。山頂を見たが一月の時と殆と変りなく相変らず濛々たる噴煙が見られるのみであつた。早速登山して見ると前回顕著に隆起して居ると言はれた地点の北壁の下部第 3 火口に当る上方の所に 2 ケ所洞穴（横穴）が噴煙の中に見え其の奥の方に眞赤な熔岩を見る事が出来た。第 1 図参照。其の色は丁度日の出，日の入りに見る事が出来る眞赤な太陽の色と同じ程度のものであつた。

第 1 図



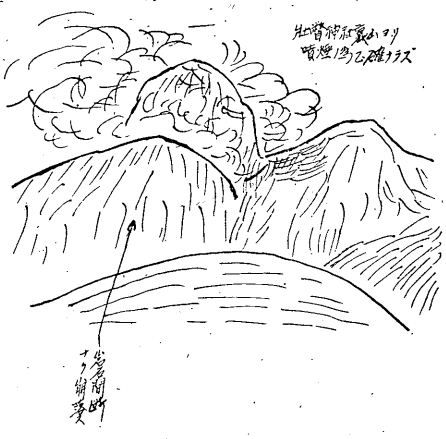
其の下部より噴出して居る水蒸気又は硫気は殆ど無色に近く丁度陽炎の如くゴウゴウと物凄いうなりを発して居た。之は正に地下の熔岩が次第に盛り上つて今やつと地表面に表れた所と思はれ大有珠の円頂丘と同じ生成のものではないかと思はれる。最早可なり温度も下り流れ出る様な心配は絶対にない様に見えた。晝間の事とて判然とは分からないが火口の上部即ち洞穴の周囲も稍赤みを帶びてゐる即ち殆ど冷却しかゝつて居るが未だ稍赤熱して居る如くに見えた。帰りに壯瞥郵便局長に御話を伺つたら火の見えだしたのは 2 月の 11 日西湖畔に於て火口夜附近に火柱が見えたと言ふ人があり，初めはデマと思つては居たが其の中にぽつぽつ同じ様な噂をあちこちより聞く様になり，14 日頃には之れがデマではないと言ふ事が分つた。局長が始めて見たのは 2 月 16 日の晩であつたと言ふ。噴煙の爲に何時でも見えると言ふのでは無いとの事であつたが此の頃は殆ど連日見える様になつたと言つて居られた。此の新隆起箇所は果して完全なるドームであるかどうかは今後の詳細なる調査によ

---

* 室蘭測候所

** 昭和 20 年 2 月 27 日の調査による。

第 2 図



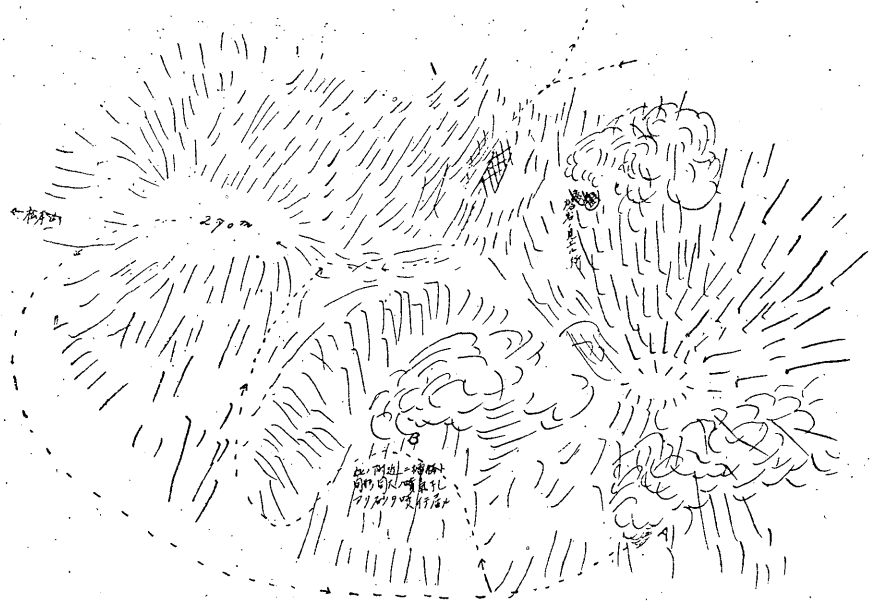
らなければならないが今假にドームと名付ける。其の高度は現在噴煙して居る所より尙約 60 米の高さを有すると推定された。第 2, 3 図參照。

火口の形狀 昭和 19 年 9 月下旬の調査当時は各火口共完全な火口の形態を有して居たが其の後ドームの隆起によつて各火口の一側面のみがぐんぐん隆起した爲に現在は完全な形態を有するもの一つも無く單に噴気孔と言つた方が概当する狀態である。1 月下旬調査の際も殆ど現在の通りであつたと想像されるが当時は水蒸気猛烈にして判然としなかつた事は前報告の通り

第 3 図

である。併して前回第 1, 第 2, 第3と名づけた火口は果して現在の噴気孔の何れに概当するかは其の変形過程を見る事が出来なかつた爲に断言出来ないがスケツチ第4図は眞上より俯瞰した場合の想像であるが第 1, 第2の火口は合一してしまつた如く同図のB点附近に僅に元の火口壁を見せて居るだけである。强いてあてはめればA点が第 1, B第 2, C第3と概当するがA点を第1火口と見るのは少し調査した上でなければ分らない。或は第3火口と第2火口が一諸になり現在のC点の噴気孔になつたとも考へられる。兎に角現在舊い火口壁を見せて居る所はB点附近のみでそれも半馬蹄形に残つて居るだけで其の他は裾野を作つて九万坪の台地に続いて居りC点附近は断崖の中腹と言つてもよい場所である。以上のA, B, Cは其の最も活動盛んな噴気孔であつて其の他至る

第　4　図



所に小さなのは続出して居る。何れも噴気孔の周囲には黄色に硫黄を附着させて居る。小さなものは餘り溫度は高くない樣であるがA，B兩点附近一帶は地溫可なり高く地面は完全に乾燥して居た。其の他の部分は非常な水分を含んで居るに拘はらず 10 数分間にびしよびしよに濡れた靴が中まで完全に乾いてしまふ程であつたが，附近に転つて居る岩石は手を觸れても熱は感じなかつた。尙B点附近には擂鉢と同形同大の穴が砂中に多数あつて周囲より崩れ落ちる砂をもくもくと丁度水が湧く如くに持上げて居た。其の中に新聞紙を入れて見たら出たり消えたりする事 4，5 回にてこげたものゝ如く茶色になり寸断されてしまつた。

隆起現象　ドームの隆起は前述したる如く現在は其の隆起も殆ど停止した如く壯瞥の局長さんも言つて居られた。併して孵化場部落附近は未だ隆起が続いて居るものゝ樣で1月下旬には未だ手押トロ位は通れさうであつた膽振鉄道の旧線の殆んど人道になつて居たものが今度汽車の窓より望見するに，人も通れぬ位に破壞されて居たのが見えた。新線の方は保線区の方が居られなかつたので其の樣子は聞く事が出来なかつた。壯瞥駅附近及市街地には何等の変化は認められなかつた。降灰は此の頃は殆んど見られない樣子であつた。尙次回は溫度計も準備して調査する予定である。